

光明寺だより

第73号
浄土真宗本願寺派
光明寺

〒793-0030 西条市大町550
TEL 0897-53-4583



心に残る詩

今の私

無駄だったことなんて

一つもない

会わなくてよかった人なんて

一人もいない

回り道も 坂道も でこぼこ道も

歩かなければよかったなんて思わない

どれか一つ欠けても

きつと

今の私は いなかったのだから



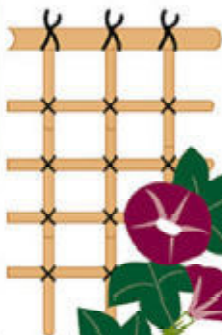
新盆合同追悼法要

8月13日・14日

両日とも

第1回目 午後6時30分

第2回目 午後8時



一口法話

いのちをいただく



口コミだけで全国に一人の愛読者を持つ新聞に「みやざき中央新聞」というのがあります。

「新聞」と、名前がついていますが、一般紙のように政治、経済、事件、事故といったニュースは掲載されておらず、色んな講演会取材して、感動した話や心温まる話などを紹介した新聞で、今風に言えばミニコミ紙といったところでしょうか。

その新聞の第一面に、編集長（水谷もりひと氏）執筆による社説が毎号掲載されておりですが、書き続けて20年になるそうです。そこで、今回その中から特に印象深い社説を41篇選んで、その名も『日本一心を揺るがす新聞の社説』と題して、昨年11月、ごま書房新社より出版されました。

出版されるや、大きな反響を呼びたちまち増刷され、この5月には6刷目が発

行されました。さらに読者の強い要望にこたえて、現在、第2弾（43編の社説が収録）が刊行されました。

早速、注目の社説を一篇ご紹介したいと思います。

一心をこめて

「いただきます」「ごちそうさま」

食肉加工センターの坂本さんの職場では毎日たくさんの牛が殺され、その肉が市場に卸されている。

牛を殺すとき、牛と目が合う。そのたびに坂本さんは、「いつかこの仕事をやめよう」と思っていた。

ある日の夕方、牛を乗せた軽トラックがセンターにやってきた。

しかし、いつまで経っても荷台から牛が降りてこない。坂本さんは不思議に思っ覗いてみると、10歳くらいの女の子が、牛のお腹をさすりながら何か話しかけている。その声が聞こえてきた。

「みいちゃん、ごめんね。みいちゃん、ごめんね……」

坂本さんは思った、「見なきゃよかった」女の子のおじいちゃんが坂本さんに頭を下げた。

「みいちゃんはこの子と一緒に育てまし

た。だけん、ずっとうちに置

いとくつもりでした。ばつてん、みいちゃんば売らんと、お正月が来んとです。明日はよろしくお願いします

……」

「もうできん。もうこの仕事はやめよう」と思った坂本さん、明日の仕事を休むことにした。

家に帰ってから、そのことを小学生の息子のしのぶ君に話した。しのぶ君はじっと聞いていた。

一緒にお風呂に入ったとき、しのぶ君は父親に言った。「やっぱりお父さんがしてやってよ。心の無か人がしたら牛が苦しむけん」

しかし坂本さんは休むと決めていた。翌日、学校に行く前に、しのぶ君はもう一度言った。「お父さん、今日は行かないよ！（行かないといけないよ）」

坂本さんの心が揺れた。そしてしづしが仕事場へと車を走らせた。

牛舎に入った。坂本さんを見ると、他の牛と同じようにみいちゃんも角を下げて威嚇するポーズをとった。

「みいちゃん、ごめんよう。みいちゃんが肉にならんとみんなが困るけん。ごめんよう」と言うと、みいちゃんは坂本さんに



首をこすり付けてきた。

殺すとき、動いて急所をはずすと牛は苦しむ。坂本さんが「じつとじつと、みいちゃんは動かなくなつた。次の瞬間、みいちゃん目の目から大きな涙がこぼれ落ちた。牛の涙を坂本さんは初めて見た。

『いのちをいただく』／西日本新聞社刊より

坂本さんの話を聞いて感動した内田美智子さん(内田産婦人科助産婦、「いのち」をテーマに全国で講演活動を展開中)が、坂本さんの了解を得て、この話を『いのちをいただく』(西日本新聞社刊)というタイトルの絵本にされました。

その絵本のあとがきに、内田さんはこう書いています。

「私たちは奪われた命の意味も考えず、毎日肉を食べています。自分で直接手を汚すこともなく、坂本さんのような方々の悲しみも苦しみも知らず、肉を食べています。『いただきます』『ちそうさま』も言わずにご飯を食べることは私たちに許されないことです。食べ残すなんてもつてのほかです……」

そう、私たちはいのちを食べていた。今日いただくいのちに……合掌。

以上のような社説です。本の題名の通り、まことに心揺るがされる社説です。

特に解説は要らないと思いますが、私たちが食事の時に唱える「いただきます」は、単なるエチケットではなく、「あなたのその尊い命をいただきます」ということなのです。そこには、「あなたの命をありがとう」という感謝の思いと同時に、「あなたの命を奪ってごめんなさい」という慚愧の思いがなければならぬと思います。

目今の食事には、坂本さんや牛のみいちゃんなど、まことに多くのおかげと恵みがあることに気付かせていただき、感謝と慚愧の思いを込めて「いただきます」「ちそうさま」と唱えていきたいものです。

そうして大事なことは、この私が、仏になる身にさせていただくことが出来た時、初めて犠牲になった多くの命も、共に救われた(成仏する)と言えるのです。

一昨年、宗門では、「食事のことは」が、新しく制定されました。(＊下記参照)

従来の「食事のことは」を少し改訂して、多くのいのちをいただいているということと、その恵みに積極的に応えていく(ご恩報謝につとめる)ことをはっきりと示す言葉になっています。

是非、ご家族そろって唱えていただきたいと思えます。

食事のことは

「食前のことば」

●多くのいのちと、みなさまのおかげにより、この「ちそうさま」をめぐられました。

(同音) 深く「ご恩をよるこび、ありがたくいただきます。

「食後のことば」

●尊いおめぐみをおいしくいただき、ますます「ご恩報謝につとめます。

(同音) おかげで、「ちそうさま」でした。

●の部分は一人で唱えます。

(同音) より全員で唱えます。

同音部分は以前の「食事のことは」と同じです。



お盆は仏教行事の中で最もよく知られた行事です。特に、亡くなって初めて迎えるお盆を新盆(あらぼん)とか、初盆(はつぼん)と違って、ご家族の方々は特別な思いを持ってお盆を迎えます。光明寺では8月13・14日、本堂で「新盆合同追悼法要」を行っています。そこで、お盆にちなんだQ&Aです。

Q お盆はいつからいつまでですか？

A お盆の行事の由来となった「盂蘭盆経」の説話によれば、旧暦7月15日にあたりますが、それが、いつの頃からか、13日に亡き人の霊がこの世に帰り、14、15日と滞在し、16日に再びあの世に帰るといふ民間信仰が定着しました。(浄土真宗ではそういうことは言いません)

この通説から、現在は、13日〜16日の間がお盆ということになります。なお、関東は7月、関西は8月に行われます。

Q 迎え火や送り火はするのですか？

A しません。
浄土真宗では亡き方は阿弥陀さまのご本願のお力で、命終わると同時に浄土に生まれて直ちに仏となり、いつでもどこでも私たちを護り導いて下さっています。お盆の時しか帰らないということはありません。
したがって、迎え火や送り火をする必要がないのです。

Q どのようなお飾りをすればいいのですか？

A 特別なお飾りをすることはありませんが、親戚の方がお参りに来ることがありますので法事の時程度のお飾りにして下さい。

仏具は五具足(ローソクたて一対・花立一対・香炉)

お供えはお菓子、果物を適宜して下さい。

また他宗では、追善回向(ついでんこう)をするために、「精霊棚(しょうりやうだな)」といったものを用意しますが、浄土真宗ではこうした棚はしません。盆提灯・盆灯ろうも特にすることはありません。

Q 浄土真宗のお盆の意義とは？

A お盆は、亡き人のご恩を偲(しの)び、「この私もいずれ、浄土に参らせて頂きます」と、私のいのちの帰るべきふるさとがお浄土であることを、改めて確認させて頂き、阿弥陀さまの広大の仏恩を讃嘆させて頂く、その尊いご縁にしていくなりに浄土真宗のお盆の意義があります。





さる5月28日(土)、ご講師に足利孝之先生(兵庫教区・安養寺住職、全国布教同士の会長)をお招きして宗祖降誕会が行われました。

台風の影響で雨模様の中、25名の参拝がありました。まことにありがたいことです。

新本堂で法座を開設して10年余りになりますが、熱心にご聴聞を続けておられる方は、次第にお念仏の味わいが深まってきているように思います。次回の法座は秋の彼岸会法座になります。是非ご参拝下さい。(下記参照)

予告

秋の彼岸会法座

とき 9月24日(土)
午後2時

中央相談員

【講師】 季平博昭先生

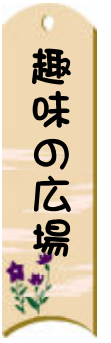


日本を代表するコーラスグループ!
タイムファイブコンサート

10月6日(木)

開演 17:00

入場料3000円(全席自由席)



俳句を楽しむ(五十二)

森本隆を

七月。いよいよ梅雨も明け、本格的な猛

暑、酷暑の日々が続く季節ですね。昨年の猛烈な暑さを思い出すまでもなく今年も既に六月の下旬、梅雨の中休みのような晴れの二、三日、最高気温が三十五度だ三十六度だという日があり、梅雨明け間近すなわち夏到来ももうすぐだと感じたことでした。七月に入ると暦の七十二候のうちの半夏生(太陽暦で七月の一日か二日ごろ)をむかえ、この頃は大雨が降り易く、雷がドンと落ちて梅雨が明ける、と昔からよく言われました。

山並みを引き寄せて梅雨明けにけり

三村 純也

大泣きの顔はれやかに梅雨あがる

大林美智子

溢れつつ梅雨の明けたるおもちゃ箱

西村 操

角川俳句大歳時記、「梅雨明け」の項に掲

げられた例句のうちの三句です。いずれも長かった梅雨も明け、真夏の太陽が照りつける日の風景であり、うっとうしかった雨の日々から開放された心情であり、雨の家居をもて余していた子供部屋の光景をそのまま詠んだ句ですね。これから迎える長く暑い毎日を感じる気持ちと長雨から開放された気分、このまったく違った気持ちで、どちらも前向きにとらえ、俳句に詠みとって、新しい季節に立ち向かうための心の洗濯のような句です。

山の上に梅雨あけの月出でにけり

岡本癖三醉

庭石に梅雨明けの雷ひびきけり 桂 信子

この二句は講談社版日本大歳時記の中に掲げられた例句から引用させてもらいました。はじめの二句とは少し違ったふんい気の二句ですね。この二句とも、単に光景や心情を詠んだ句というより、「梅雨あけ」という季節の移り変わりの一瞬を「月」とか「雷」にことよせて巧みに詠んだ作品です。大自然界の日や月の運行にともなう微妙な移り変わりというか、ちよつとした変化に気付くということも一種の才能だと思わされる二句でした。

こうして梅雨もあけ、いよいよ盛夏です。近年、年ごとに猛暑の度合いが強くなり、無事に一夏を越すのにも覚悟が要りそうでつい力が入りそうになりますが、ここでは多くの夏の句の中から夏の暑さをしのぐ工夫や智恵を探してみましょ。

白地着て袂の風をほしいまま 中島けい子
地のほてり風のほてりへ水を打つ

在原久美子

暮れ残るものを遠見の端居かな 鎌田仁雄
白地薄地の夏物の衣服、打ち水、端居、どれも我国古来からの夏季の暮らし方の工夫としては実に有名です。現在の東京でも地域を区切って一斉に打水をして、実際に何度か気温が下がったといったニュースを見た事もありますね。物理的な暑さを、人間の視覚や触覚、聴覚をうまく利用した消暑法こそ我々の知恵ですね。

世の中を美しと見し簾かな 上野 泰

日傘ごとゆりの木陰へ入りにけり

杉浦恵子

簾も日傘も古人の智恵。今でも我々の暮らしに大いに役立っていますから、よく考えれば大発見だと言ってもいいかも知れません。そしてこの号の最後に皆さんに贈りたい一句があります。かつて愛媛新聞で読者の俳句らの選者もつとめた事のある、現代俳人の代表者の一人でもある、草間時彦氏の句。

睡蓮や河馬のごとくに健康で 時彦

おおらかに、自分に合った生き方で、夏ののり切ってください。



住職書作品



本文―頑愚信無比
読み方―頑愚、信に比べるもの無し
意味―頑固で愚かなことは、まことに比べるものがない自分だ



BOOK 本



発行所 ぐま書房新社
著者 水谷ひろもと
定価 1200円+税

本書は、「宮崎中央新聞」に20年にわたり書き続けてきた社説、約1000本の中から41本を厳選し出版されたものです。発行半年余りで既に6刷目が増刷されるなど、大きな反響を呼んでいます。読者から次のような声が届いています。

「人の人生を変えてしまう新聞の社説なんて他に聞いたことがない。日本一小さいけれど世界一心を揺さぶるコラムです。」

コラムニスト 志賀内泰弘

『宮崎中央新聞』の社説が本になると聞き、今の私は待ちに待った本がやっと読めるぞ！と小躍りしたい気持ちを抱いています。

社会教育家 田中真澄

読めば読むほど幸せになる新聞がここにある。

作家 喜多川泰

テレフォン法話
0897-53-4585



「光明寺だより」を
ご家族の
皆さんでお読み下さい

次回発送予定ー9月下旬



言葉のプレゼント

誕生日というのは
自分が祝ったり祝われたりする
日ではありません
お母さんに感謝する日です
母と食事に行くなり
いなければお墓に行くなり
母を考えて過ごす日です

淀川長治



★バックナンバーのお知らせ
「光明寺だより」1号〜72号
一部・25円(送料120円)
「テレフォン法話集」第一集〜七集
一部・300円(送料120円)

★5月28日(土)、宗祖降誕会が行われました。台風の影響で雨模様の中25名の参拝がありました。参拝者の皆さんには頭の下がる思いです。次回は9月の彼岸会法座になります。

(*関連記事5ページ)

★10月6日、2年ぶりに「タイムファイブコンサート」を開催いたします。

(*関連記事5ページ)

★神戸大震災で倒壊した浄土真宗本願寺派のお寺が、今回、安藤忠雄先生の設計(予定)で再建されるそうです。もし実現すれば安藤忠雄設計の寺院が4カ寺になります。

★本山の助け合い募金(東日本大震災義援金)が7月5日現在、7億3千万円を超えました。すでに4億円が関係機関に分配されたそうです。

